

12月19日(土) 第11回ビビンの会・報告とお客様の感想

ビビンの会リーダーを務めています、浅野です。今回はクリスマスバージョンのビビンの会を開催しました。お客様は合計56名、ボランティアスタッフを含めると会場は70名以上の人たちで混み合う大盛況となりました。

ビビンの会ではクリスマスプレゼントの交換や、ディスカッションなどのミニイベントを行い、終了後の食事会では日韓文化O×ゲームを取り入れるなど、お互いの文化に触れあい友達を作る場として役割を果たしました。リピーターのお客様にも新規のお客様にもご満足頂けたようです。



今回、このビビンの会の常連であるリ・ウェンカイさん(マレーシアの方)がボランティアスタッフとして活躍してくださいました。彼がビビンの会についてのコメントを下さいましたので、下記に載せたいと思います。

李文凱(リ・ウェンカイ)さんのコメント



日本に暮らして約10年間、よく「日本好きですか?」と質問されます。「好き嫌いというよりも日本での暮らしは当たり前で、それがまるで自分の一部になりました」と答えます。家族の事情により、国に帰り長男としての責任を果たすことを決めました。その決断をしたとたん、寂しさと虚しさが重く心に押し掛かっています。もしかしたら、日本が好きか嫌いではなく、日本に暮らしている自分そのものが好きなのだと気づいたのかもしれませんが。

子供の頃より、周りの大人に第2次世界大戦の話聞かされ、自然と日本のことを嫌悪していました。しかし、日本の音楽や漫画文化に影響され、同時に日本に興味を持ち始めました。高校2年生の時、学生交換計画でマレーシアに来た日本人と知り合い、思っていた日本人のイメージとは違い、自分たちとそんなに違いがなく、喜怒哀楽を持つ人間であることを知りました。一ヶ月だけの滞在

でしたが、とても良い経験と思い出を作ることができました。

そういう私がビビンの会に参加して、韓国からの留学生たちと知り合うことができました。日本での生活がまだ不慣れで、異なる文化に戸惑う彼たちの姿が10年前日本に来たばかりの自分と重なって見えてきます。一人で生きていく不安、理解できない不満、分かってもらえない失望に打ちのめされた日々的一幕、一幕が脳内に浮かんで来ました。

「似ているから嬉しい、違うから楽しい」と言うセリフのあるTV番組で聞きました。ビビンの会に参加して、この言葉の意味を自ら体験して理解することができました。日本での常識が、韓国では非常識であったり、またはその逆だったりします。マレーシアと照らし合わせても共通の部分もあり、異なるところもありました。それを知るのがとても楽しくて、同時に相手のことをより理解することができました。

人は動物と同じく本能的に違いを嫌い、拒みます。「違いにより偏見が生まれ、偏見より争いを生む」と、ある本にそう書いてありました。私はその考えを否定はしません。しかし、違いを理解し、拒むのではなく、受け止めることこそ平和への近道だと私は考えます。

動物と違って万物の霊長といわれる我々こそ、お互いの違いを理解し合うことができるのだと思います。ビビンの会でよく韓国と日本の違いが紹介されていますが、紹介されたところで何かが変わることが目的だと私は思いません。そこに違いがあるのを知ってもらうことこそが一番重要だと思います。近くて遠い存在と言われている日、中、韓三カ国の距離を縮める一番の方法は、ビビンの会のように民間レベルで少しずつ氷を溶かすことが重要です。